市政を問う！

議案質疑・一般質問

令和元年第4回定例会・令和2年第1回定例会

令和元年
第4回定例会
12月10日 11日 12日

令和2年
第1回定例会
2月27日 28日
3月2日 3日

●質疑…市長に対し議案の内容や提案の理由などについて、疑問の点や不明な点を問うこと。
●一般質問…議員が本会議で一般事務や将来に対する方針など市政全般について質問すること。

絆　太田　誠（おおた　まこと）

■ 公立幼稚園の預かり保育の拡充について

質問　**公立幼稚園の園児が減少する中で、週５日のうち４日を限度として行われている預かり保育を、毎日午後２時～４時までの預かり保育とならないか？**

答弁　教育委員会として保護者のニーズに応えるため、私立幼稚園協会、公立幼稚園長会をはじめ、関係者と協議を重ね、公立幼稚園の預かり保育を週５日間実施する方向で調整している。

■ 長島地区市民センターの津波避難施設化について

質問　**地区市民センターの３階には、合併前の議会関係の部屋が手つかずのまま多数残っており、屋上も含めて津波避難施設として利活用しないのか？**

答弁　当該施設は耐震性も問題なく、十分な高さもあり、津波避難施設として利活用することは、新たに施設を整備するよりもコスト面では有利であるが、外階段の設置や施設改修が必要となる。まずは伊倉島地区津波避難誘導デッキの整備に取り組んでいく。

■ 長島駅周辺を活性化する地区計画（特区）について

質問　**長島駅には、なぜなの里等へ向かう多くの観光客が訪れているが、駅周辺は市街化調整区域でコンビニもない。そこで、地域の活性化を図るためにも、市街化調整区域に地区計画を設けないか？**

答弁　長島駅周辺の既存集落の維持及び周辺地区を含めた活性化などを図るべく、地域住民との合意形成に努めている。今後は三重県や関係機関と協議して、地区計画制度などの活用について調査研究して、長島駅周辺の現状と課題に取り組んでいく。

桑風クラブ　水谷（みずたに）　憲治（のりはる）

■ 学校教育について

質問　**市内小学校における複式学級の現状把握と課題への対応は。**

答弁　児童にとっては、教師による直接指導の時間が短くなり、教師によっては授業準備や指導法の工夫等の負担が増える事をはじめ、諸課題は認識している。それらに対応する為、非常勤講師を加配し概ね複式による授業が解消される様に努めている。今後とも豊かな学びを保障する為、適切に対応していきたい。

■ 多度地区小中一貫校多機能複合化事業について

質問　**予定地における埋蔵文化財等への対応について問う。**

答弁　建設予定地である多度中小学校とその周辺には天王平遺跡がある為、調査の必要は承知している。試掘・発掘については、建物や運動場等の位置、建物構造等が確定した段階で、市の埋蔵文化財保護担当部署と協議する。まずは、どの様に施設を整備し、どれだけの敷地面積が必要となるか考える必要がある。今後も他市事例を研究し多度の小中一貫校に相応しい敷地面積を整えていく。

質問　**今後の事業進捗の在り方について、協議の場の設置について問う。**

答弁　令和２年度より、保護者、地域及び教職員、教育委員会が連携し、子ども達のより良い教育環境を創出し、地域の実態に即した小中一貫校となるように、各種関係団体の代表者等で組織した協議会を設置し、意見の取りまとめを行う。また、その中で、専門ワーキンググループの設置や、保護者・地域・教職員から意見をもらう機会を作り、広くご意見を聞いていきたいと考えている。

日本共産党桑名市議団　多屋（たや）　真美（なおみ）

■ 図書館の学習室不足への対応を

質問　**土、日、長期休みのメディアライヴ前では、朝７時前から学生が座り込み、図書館の開館（メディアライヴ開館は８時３０分、図書館開館は９時）を待っている。現在開放している図書館、人権センターの講習室の他に施設を開放して、状況の改善をしてほしい。**

答弁　まちづくり拠点施設は執務時間中に限り開放しているが、利用者が少ないことから、若い人達に活用してもらえるよう、各施設の利用実態を踏まえ、効果的な実施方法について検討していきたい。

■ 多度地区小中一貫校の整備について

質問　**現在の到達点、今後の事業計画の方向付けは？**

答弁　令和元年度、合計５回のワークショップを行い、そこでの意見、保護者との懇話会、多度地区の小中学校教職員との意見交換会での意見等を総合的に勘案し、計画地は「多度中小学校と その周辺」、複合化施設については「小中一貫校に複合化することで相乗効果のある機能」について検討する方向性を基本構想（案）に示した。

今後は基本計画の策定に向けて、計画地の取得にかかわる取り組みを進めると同時に、引き続き広く保護者、地域、教職員の意見を伺いながら、小中一貫校のソフト、ハードの両面について検討していく。

質問　**小中一貫校の整備とまちづくりとの整合性は？**

再答弁　この事業は深くまちづくりに関していくという視点を踏まえながら、引き続き関係する部局と連携していく。

公明党桑名市議員団　森（もり）　英一（えいいち）

■ 防災について

質問　**浸水地域の高台避難について**

答弁　浸水地域の居住者を全員避難させる施設などは、現時点で確保できていない。また、広域避難の際の主な移動手段が車と考えると、対応できる駐車スペースの確保も必要となる。高台に立地する大規模店舗などが備える何千台という駐車スペースは、災害時の一時的な避難場所として極めて有効である。特に立体駐車場については、雨をしのぐこともできるため、より避難場所に適していることから、現在、災害時における避難場所としての駐車場利用の可否について、関係事業者に打診している。

■ 高齢者の移動手段について

質問　**定額制タクシーによる外出支援について**

答弁　ドアＴＯＤＡＹによる、更なる高齢者の移動手段の事例は、民間会社と社会福祉協議会が連携し、高齢者を対象にした定額制タクシー事業と認識している。こうした事例は、今後、地域公共交通会議において考えていく必要性がある。

■ 障がい者雇用について

質問　**市内企業における雇用促進の取組みについて**

答弁　障がい者雇用を理解し、障がい者視点の雇用環境の企業を表彰し、雇用意識の高揚に努めている。

質問　**協定によって障がい者が取り組める職務は。**

再答弁　障がい者雇用が難しいとされる建設・医療・福祉分野において、障がい者の適性に合った仕事を作り出して、雇用率の達成に繋げている。

絆　辻内（つじうち）　裕也（ゆうや）

■ 防犯カメラ設置補助金について

質問　**補助対象について問う。**

答弁　市内自治会で事前に地域の合意形成がなされていること等を要件として、防犯カメラの機器購入費、工事費等に係る費用の一部を補助する。

■ 河川の浚渫について

質問　**緊急浚渫推進事業に起債を活用した事業計画について問う。**

答弁　国により地方公共団体が単独事業として緊急的に河川等の浚渫を実施できるよう「緊急浚渫推進事業費（仮称）」が地方財政計画に計上されるとともに、浚渫経費について地方債の発行を可能とするための地方財政措置が創設された。市としては令和２年度当初予算にこの地方債を活用し、３，０００万円の事業を見込んでいるが、今後は県並びに県内市町のこの事業に対する要望状況や優先度等の情報収集に努め、国への地方債の手続きを進めていく。

■ 下水道整備について（久米幹線島田汚水管路）

質問　**久米幹線島田汚水管路施設設計業務委託料について問う。**

答弁　本市の平成３０年度末下水道処理人口普及率は７６．３％で令和８年度末に約９０％を目標に整備を進めている。久米幹線島田汚水管路施設設計業務委託で整備を進める区域は予てより整備要望があり平成２６年度に事業認可区域に編入していた。今後は令和２年度に実施設計を行い、令和３年度から４年度にかけて約３．２ｈａの整備を予定している。

絆　成田（なりた）　久美子（くみこ）

■ 就学前施設・教育の在り方について

質問　**無償化という国策から、就学前施設利用は増加だが、公立幼稚園への申込は減り、このままでは「支援を必要とする子どもの居場所」として幼稚園を必要とする考えも難しくなる現状だが、市の考えは？**

答弁　本市が長年培ってきた「遊びは学び」とする教育活動充実の基盤に力点を置いた園運営に努め、幅広い保護者のニーズと個性に応じた教育を展開している。国の制度改正などの動向や園児数の推移、施設の状態等を踏まえ、引き続き検討していきたい。

■ 学校教育について

質問　**近年の猛暑の影響から水泳の授業ができなかった り、水泳指導・監視を行う教職員の負担・設備の老朽化などから、全国的に学校のプールを廃止している現状がある。そこで、本市のプールの維持管理及び水泳授業の民間委託について、市の所見は。**

答弁　他市町での民間委託は認識しており、本市の総合教育会議でも議論がなされた。子どもたちにとって、より良い教育環境の充実を目指して先進的な事例を参考に研究している。

■ 持続可能な社会について

質問　**つけを回さず、この桑名市を次世代へ引き継ぐべきだと思うが、統合型リゾートIRへの所見は。**

答弁　人口減少など社会構造が変わる中、今後成長し続ける桑名市を目指すため財源確保は大きな課題であるので、ＩＲ誘致に関し三重県に調査研究を求めており、県の動向を待つ状況である。

日本共産党桑名市議団　石田（いしだ）　正子（まさこ）

■ 補聴器購入への公的支援を

質問　**聞こえにくくなってコミュニケーションが取りづらくなると、外出を避けて、社会的に孤立してしまうリスクが高くなる。それらの早期対策に有効な補聴器を利用できるように支援を求め、その中で、①コミュニケーションの支援②認知症の予防について、市の所見は。**

答弁　補聴器の使用による聞こえの改善は、円滑なコミュニケーションを図るうえで有用な手段と認識しており、介護予防や健康寿命の延伸の観点からも有効と考えている。なお、難聴の原因によっては、治療可能な場合もあるため、年齢のせいだからと自己判断せずに、日本補聴器工業会の「聞こえのチェックリスト」などを参考に、耳鼻咽喉科での受診・検査を受けることの啓発も必要であると考えている。

質問　**医療控除を受けられる制度とともに公費補助の確立を。**

答弁　現在、補聴器の購入については、障害者総合支援法による補装具の制度において、聴力が規定以下で身体障害者手帳が交付された場合には、自己負担はあるが、所得に応じて購入費用が支給されている。また、障害者の基準に届かず補助の対象にならなかった場合でも、新たに２０１８年度からは所得税と住民税の医療費控除の対象となった。なお、この医療費控除の対象とするためには、補聴器相談医の証明をとるなど諸手続きが必要となるため、これらの周知も図っていきたい。

フォーラム新桑名　愛敬（あいきょう）　重之（しげゆき）

■ 学校施設の安全性について

質問　**国の耐震化ガイドブックのチェックリスト活用状況について**

答弁　令和元年度は建物定期点検に加えて、耐震化ガイドブックに示される、「点検チェックリスト」点検項目に沿った点検を実施したところ、今後について は、得られた結果を踏まえて非構造部材の現状把握を行うとともに、必要に応じて本市独自のアレンジを加えた点検チェックリストを検討していく。

■ スポーツ施設について

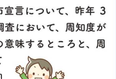
質問　**近隣市町との広域化について市の考えは。**

答弁　公共施設の広域的な活用、連携については、スポーツ庁の「スポーツ施設ストック適正化ガイドライン」や本市の「公共施設等総合管理計画」及び「同計画の第１次アクションプラン」においても、方針として掲げられている。将来を見据えると、スポーツ施設だけでなく、今ある公共施設についても自治体が単独で運営していくよりも、国や県、近隣市町と連携し、取組みを進めていくなかで、各自治体にとっても利用者にとっても、より効率的、効果的な展開が図られるものもあると思っている。しかしながら、本市だけで、行える方法ではないことから、近隣市町と連携を図りながら、広域的連携の可能性を慎重に検討したいと考える。

絆　渡辺（わたなべ）　仁美（さとみ）

■ 子どもの権利について

質問　**子どもを虐待から守る都市宣言について、昨年３月の人権問題に関する意識調査において、周知度が低下していたが、この宣言の意味するところと、周知度が下がったことについて考える必要があると思うが如何か？**



答弁　児童虐待フォーラムの開催や、オレンジリボン運動など の啓発を行っているが、今後は守られる対象の若年層への啓発を推進し、より多くの子供に「児童虐待」について「自分たちが守られるべき存在である」ことを周知していきたい。

■ 女性活躍について

質問　**起業する女性が増えているが、今後どのように支援するか？**

答弁　桑名市が公募した「桑名起業女子の会」において、勉強会やシンポジウムを開催し、意見交換や交流会など大いに盛り上がった。今後も交流できる場やネットワークづくりを検討したい。また、スモールビジネスを展開する女性起業家は、自分の常設的な店を持つことが難しいことから場所について桑名市の公民連携窓口コラボ・ラボ桑名を活用した、市と民間との連携など、様々な手法を検討したい。

桑風クラブ　近藤（こんどう）　浩（ひろし）

■ 土砂災害防止法について

質問　**額田地区等の安全対策、指定による資産価値低下と税減免、ハザードマップ作成は？**

答弁　指定地の避難路確保は関係機関と調整・検討する。税について は固定資産評価額に２割の減額補正を実施している。マップは県の指定完了後に作成する。

■ 三岐鉄道北勢線の値上げについて

質問　**運賃値上げに対する市の対応と安全対策は？**

答弁　大幅な値上げの説明がなかったことは大変遺憾、詳細説明と対策を求めた。また、駐輪場の整備、路面標示工事等を行い通学路の安全確保に努める。

■ 西部地区（七和・久米）の浄滝対策について

質問　**星川・坂井橋交差点等の浄滝解消と坂井橋の架替計画は？**

答弁　浄滝解消に向け三重県に対して広域的な要望活動を継続している。坂井橋については架替の是非も含め三重県と協議している。

■ 消防行政について

質問　**消防団組織の充実は？**

答弁　各種施策により団員確保及び消防団の活性化に努めている。地域行事等に積極的に参加できる体制を支援すると共に新たな PR 活動にも取り組んでいく。

■ 河川管理について

質問　**蓮花寺川の耐久性能と強度調査の実施は？**

答弁　開発による雨水流入が放流先の河川の治水能力に影響を与えるものではないと考える。規防等を適正に維持管理することで河川能力の維持に努めていく。

絆　水谷（みずたに）　真幸（まゆき）

■ 学校への ICT 導入について

質問　**①現状について②今後の方針について**

答弁　①令和元年９月に、公立小中学校に児童・生徒用タブレット端末を、各普通教室に常備のプロジェクターとスクリーン、校内 LAN を設置するなど、大規模な学校 ICT 教育環境整備を行った。②国の推進計画を注視し、より一層学校 ICT 教育環境の充実に向けてソフト・ハードの両面から研究していきたい。

質問　**児童・生徒の反応をどのように認識しているか。**

答弁　現場の状況を視察したところ、子ども達は非常に集中をして、自らそれに取り組んでいるという姿勢が色濃く出ていた授業であった。これが広がることによって子ども達の関心度も高まると考えている。

■ 都市計画について

質問　**空き家が多く、今後も増えていくと予想される。市域の拡大を抑制して、市内を更新していくことが求められていると思うが、市内の空き家、空き地の更新がなかなか進まない状況と認識している。そこで、コンパクトシティ政策について、市の見解は。**

答弁　近年、空き家や空き地が問題となっている。本市では平成３０年５月から空き家バンクを創設し、空き家などの利活用の推進に取り組んでいる。さらに、令和元年１０月から空き家等の購入者又は賃借希望者の意向情報について、空き家バンクとあわせてホームページに掲載し、需要者と供給者の情報マッチングに努めている。これからも、コンパクトで持続可能な都市形成に努めていきたい。

桑風クラブ　仮屋（かりや）　武人（たけひと）

■ 九華公園の活用方法について

質問　**九華公園のイベントや祭りの集客が減っているように感じる。公園内のトイレは、古くて男女共用で女性が使用しにくい。これではイベントや祭りの内容とは関係なく、客足が遠のいてしまうのでは。**

答弁　より多くの人に来てもらえる公園にするべく、民間事業者からの新しいイベントの提案に際しては、関係所管と連携して対応していく。また、トイレの老朽化は認識しており、財源も含めて調査する。

■ 幼保無償化後の各園の負担について

質問　**給食費の減額はないはずなのに、市内の小売店業者から、幼保無償化により「取引を減少された」「取引自体を解除された」という声を聞いている。現場と行政側に温度差があるのでは。**

答弁　保育料は従来から市が徴収しており、新たな負担はない。ただ、無償化後は、保育料に含まれていた副食費を保護者から実費徴収することから、国が新たに基準となる金額を設定しており、私立保育園などは、それをもとに給食食材等を考慮する中で、発注する事業者を変更する場合もあると聞いている。

■ 城南海岸堤防工事について

質問　**令和５年で完成予定と聞いていたが、現在海側の堤防工事を着手したところで、到底予定通りに終了しない。今後の計画は。**

答弁　現在、県にて施工中の区間は４～５年後の完成を目指し、その先の区間も来年度以降調査のうえ、結果に応じて進めていただくよう要望していく。

絆　森下（もりした）　幸泰（ゆきやす）

■ 幼児教育・保育について

質問　**幼保無償化は、子育て世代への経済的支援だけでなく、幼児教育を通じた将来への人づくりの意味も大きく、保育の質の確保・向上が重要である。**
一方、特に私立保育園をめぐっては無償化に伴う業務の増加や、近年の保育士の待遇改善による人件費のアップなどで運営が圧迫されている。このような状況の中、保育の質の確保についての市の考えは？

答弁　副食費の金額設定による苦労や、徴収などの業務負担の増加などは認識しており、食育の重要性から も給食の質の低下を招かないように取り組んでいく。人件費等による私立保育園の経営状況についても認識しており、私立保育園が継続的かつ安定的に運営できるように引き続き支援していく。

■ 空き家をめぐる状況について

質問　**昨年１２月より空き家バンクでの利用意向調査（ニーズ調査）が始まった。空き家を利用したい人と持ち主をマッチングする画期的な取り組みではあるが、行政だけでできる事ではないと考える。民間との協働はどのように考えているか？**

答弁　登録件数は少ないが本市の空き家には地理的なポテンシャルがあると考えている。地域コミュニティ情報等に関して、専門的アドバイスができるコーディネーターは、民間の知恵やノウハウが活用できる有効な取り組みだと考えている。
魅力ある空き家バンクとなるように協定締結団体などとの連携を図り、検討していきたい。

桑風クラブ　諏訪（すわ）　輝富（てるとみ）

■ 防災について「農業用ため池について」

質問　**ため池の意義・総数について問う。**

答弁　ため池は、水量に乏しく灌漑に苦労していた地域に、農業用水を確保すべく、降雨を効果的に利水する為、築造したものであり、現在は、農業用水確保、洪水調整、土砂流出防止機能等多面的機能を持つ施設である。市内には４０カ所を確認している。

質問　**ため池の管理主体・ルールについて問う。**

答弁　農家組合や水利組合等に、県が作成した「ため池管理の手引き」に基づき維持管理を行ってもらっている。日視による点検、除草作業をはじめ、豪雨が予想される場合、防災を目的とした減水作業等の協力をお願いしている。また、農業用水として利用されていないため池は、水を抜く等、防災上の対応もお願いしている。なお、ため池の改修事業については、老朽化したため池を改修するため、三重県の施工により「蟻塚大溜池」の規体等の改修工事に着手している。また、新たな箇所として、下深谷部地区を受益地とする「馬の頭新ため池」の改修を進めるため、来年度、事業計画書作成を予定している。

質問　**ため池の決深について、および、浚深前の生物調査の実施の有無について問う。**

答弁　ため池の利用状況を見ながら、地元管理者と調整を行い、適切な維持管理に努めていく。また、浚深実施前には、関係法令に基づき、生物調査等適正に対応していく。

無会派　伊藤（いとう）　恵一（けいいち）

■ 小規模校・複式学級の素晴らしさ…茨城大学付属小学校含３校を視察して

質問　**既に１人１台タブレットは配備！【自立の移動・相互対話・その深い学びと協同作業できとめ発表】中教審の学びを既に実現！中学と交流し中１ギャップもない。浅田真央も本物に触れ、大学の最新教育支援で質の高い教育を実現！その他に？**

答弁　小規模校は個別指導や補充指導が行いやすく、複式学級は異学年交流、主体的な学びの促進が可能だ。学校の規模の大小にかかわらず重要なのは、子どもたちにより良い教育を提供することである。

一貫校推進の根拠「施設一体型が場 273 校に。」が分母29,818校で（割ると）0.0091！制度として失敗!!一貫教育での（学力が）全国学力調査で 58%が向上無しかダウン！文部科学省自身が言っている、失敗!!&閉校は学生数でなく住民総意が出て市・教委が動く。逆は無い!!桑名はやってはいけない事をしている!?

再質問　情報の信用性と進め方（の観点の再）質問で、重要な事は子どもにより良い教育を提供する事である。

■ 美濃・古野の宝!!扉けば輝くダイヤの原石多度西小

質問　**現在当該地区から青葉小に 39 人が登校。旧多度西小学校復活の ご検討を !? 地区市民に呼びかけては !?**

答弁　現段階では旧多度西小の復活は考えていない。

絆　南澤（みなみざわ）　幸美（ゆきみ）

■ 選挙改革プロジェクトチームについて

質問　**検討内容と方向性について**

答弁　投票率が低下し続けており、この状況を危機的なものとして認識している。そこで、投票率の向上、その他選挙に関する諸課題を議論するために、昨年１０月、選挙改革プロジェクトチームを立ち上げた。検討内容は、投票率や有権者の年齢別構成割合などの分析を踏まえた期日前投票の在り方、特に若年層に向けた効果的な啓発方法、持続可能な選挙執行体制を構築するための選挙事務における人員体制など、多岐にわたる課題について、鋭意、検討を重ねている。実施時期と改革の方向性については、令和２年５月頃を目標に検討結果を提言としてまとめ、発表する予定である。

再質問　**県内他市町の期日前投票の設置状況や参考事例について**

再答弁　期日前投票の充実は、投票率向上の大きな鍵である。県内では、複数の市町が期日前投票所をショッピングモールに設置しているが、全国的には、商業施設以外の場所に設置している例などがあるので、選挙改革プロジェクトチームでは、設置場所・方法・期間など、あらゆる角度から有権者が投票しやすい期日前投票の在り方について検討している。その他、選挙区にとらわれることなく投票できる共通投票所についても、県内では設置している市町はないが、選挙改革プロジェクトチームでは、共通投票所をはじめ、あらゆる方策について議論している。

絆　渡邉（わたなべ）　清司（きよし）

■ 市長の政治姿勢について

質問　**市長の任期を迎えるにいて。２期目の最終年を迎え、これまでの所見を尋ねる。**

答弁　「まちづくり市民力の発揮」「次世代への責任」を基本視点として、まちづくりを推進してきた。また、就任当時から「全員参加型の市政」を掲げてきた。総合計画の基本理念「本物力こそ、桑名力」のもと、歴史・文化を大切にしながら、更なる魅力の向上、快適な暮らしの為、全力で取り組んできた。その中で特に強い思いのある事業としては、まず「新病院の整備」である。桑員地域で急性期医療及び高度医療に対応できる新病院として、平成３０年４月開院、５月に診療を開始できた。２つ目は「桑名駅周辺整備」である。桑名駅自由通路と橋上駅舎は、現在も整備中だが、本年８月末には完成し供用を開始できる。併せて、桑名駅周辺複合施設等整備事業なども進めており、市の玄関口である桑名駅が生まれ変わる。３つ目の「行財政改革」は、就任時の危機的な財政状況を突破しなければとの思いで、特に力を入れて取り組んできた。公民連携の手法を取り入れ、歳入増加・歳出削減を図りながら市民サービス向上に努め、補助金や使用料・手数料の見直しでは、市民にも理解をもらいながら進めてきた。現在、危機的状況を突破し、新たなフェーズに差し掛かっている。今後も社会情勢の変化や多様化する市民ニーズに対応し、本市が持続可能で成長し続けられるまちへ変革する為、継続的に取り組んでいく。

桑風クラブ　満仲（まんじゅう）　正次（まさつぐ）

■ 桑名市総合計画について

質問　**前期基本計画における行財政改革の進捗は。**

答弁　「納税者の視点で次の世代に責任ある財政に」を基本方針に掲げ、経営資源を見直し、公民連携の考え方のもとで改革を進めてきた。例としては、使用料・手数料、補助金の見直し等を行ってきた。

質問　**後期基本計画における重要施策と目標値は。**

答弁　市民満足度調査の結果から、防犯・交通安全、公共交通、道路の分野が重要度を増しており、これらの課題を「３つのミッション」として重点施策にした。市民満足度が上昇して更に住みやすいまちになるように、重点施策を含める各事業を着実に進める。

■ 令和２年度の財政運営について

質問　**①「がんばり“見える化”予算」とは②令和２年度の財政指標の目標値について**

答弁　①事務事業での歳入確保・歳出削減、実施手法の見直しなど、職員の創意工夫の成果を評価し、成果額の全部又は一部を、翌年度当初予算の財源として優先配分する制度である。②経常収支比率は類似団体と同程度を目標に、財政調整基金残高は現在残高以上の確保を、地方債残高は現在の水準を上限として今後更なる縮減を目指し、改善に努めていく。

■「災害に打ち克つまち」について

質問　**道路・河川の災害復旧及び防災・減災について**

答弁　昨年９月北勢地域豪雨による被災箇所の復旧状況は、道路や河川の土木関連施設では４２箇所中３４箇所が復旧し、残る箇所も早期復旧に努めている。

公明党桑名市議員団　畑（はた）　紀子（のりこ）

■ 桑名駅周辺の整備について

質問　**今回、公民連携手法を活用し民間事業者の提案で駅前広場等の整備を進めていが整備費用負担はどのように考えているのか。**

答弁　外部有識者による委員会からは、将来を見据えた駅前の整備が大切で、負担軽減ばかりではなく、相応の負担はすべきとの意見もある。今回、民間事業者からの提案により、公共の機能と民間施設を複合的に整備する場合において、市が公共の機能に対して一定の負担をすることを考えている。今後は優先交渉権が決定しリスク分担の対話が始まるが、市の財政負担軽減を目指しつつ国の補助メニューも活用できるよう関係機関と相談しながら進めていく。

■ 小中一貫教育について

質問　**令和２年度から９つの中学校ブロックを一つの単位とした小中一貫教育の全市的取り組みが始まるが、多度地区では児童数の減少が進んでいる小学校もあり、様々な心配の声を聞く。この事業に対する地域や保護者の考えはどのようなものか。**

答弁　こうした状況を鑑みて、施設一体型小中学校の早期開校を目指し取り組んでいる。地域や保護者からは「一刻も早く進めてほしい」、「時間をかけて丁寧に話し合って進めてほしい」等の意見がある。

再質問　**時期によっては規模も予算も変わってくると思うが、開校年度はいつぐらいと考えているのか。**

再答弁　用地取得などによって前後するだろうが、令和７年４月開校を目標に事業を進めていきたいと考えている。

フォーラム新桑名　松田（まつだ）　正美（まさみ）

■ ２０２０年度予算について

質問　**文化部署が、度々、組織改編されている。そこで、文化関連施策について市の考える方向性を問う。**

答弁　文化部署については、平成２７年度に、市民活動が多様化する中で、市民ニーズに的確に対応していく為、教育委員会から市長部局に組織改編し、文化芸術資源を地域振興や観光資源としても活用する為、観光部署と同じ組織にした。今回の組織改編では、さらに、市固有の文化を大切な財産と再認識し、磨き上げ、市のブランドの一つとして対外的に発信をして文化事業の発展に繋げていきたいと考えている。

文化協会と、この条例に上がっている今回の所管替えについて、何らかの調整はされたのかどうかを問う。

再質問

再答弁　事前に文化協会の会長にはご意見を伺っている。
その中では、市役所の組織に関することなので特に反対する立場にはないが、文化に携わる関係者の方が市役所のどの窓口に行けばいいのか分かるように、組織名称として文化という名称をいずれかに残してほしいというような意見をいただいた。

無会派　伊藤（いとう）　研司（けんじ）

■ IR〔カジノを含む統合型リゾート〕問題

質問　**「カジノ」を広辞苑で調べると「ルーレット・カード・ダイスなどを備えた公認の賭博場」とある。賭博はカジノ、入れ墨はタトゥー、サイコロ賭博をダイスカジノという風に、カタカナにすると何故か？日本語本来の意味から変わってしまう！**
ギャンブル依存症問題、さらには、一企業が自治体どころか国の予算よりも大きくなってきている現実もある。中国の「一帯一路」政策、欧州のハゲタカファンドに自治体が飲み込まれ「今日のテベット・ウィグル・香港は明日の台湾に、そして未来の日本になってしまうのではないか？！」と危惧する。
ＩＲがインバウンド・観光に寄与しない！
何故なら、海外からの観光が好調なのは、日本の文化・伝統や自然、買い物などが人気を呼んでいるからだ。
更に、マリーナベイ・サンズを見て、誘致を考えるならば、規模が違いすぎて大きな間違いになるのでは？！と心配する。

答弁　まずは、海外での実状や実態を正しく理解する事が大事である。その上で、現実的な誘致可能なエリアの設定など現実的、具体的議論が必要と考える。
ＩＲの申請者は三重県であることから、三重県に対し、導入が可能かどうかも含めて、検証して欲しいと要望している段階である。

絆　倉田（くらた）　明子（あきこ）

■ ワークスタイルを選択できる職場づくりについて

質問　**新型コロナウイルス感染症予防策に対応するため、市でのワークスタイルの見直しは。**

答弁　現在、自己都合でも取得できる時差出勤制度を取り入れている。今後も柔軟なワークスタイルの実現に向けて努めていきたい。

■ 外国人との共生について

質問　**市には４千人を超す外国人が暮らし、今後も増加が予測される。日本語の習得、災害時の対応等、外国人を受け入れるための早急な仕組み作りが必要である。市の取組みを問う。**

答弁　日本語教室ボランティアスタッフの養成等、企業とも連携した共生の仕組みが必要であり、令和２年度予定している外国人住民へのヒアリング調査も踏まえ、今後の施策を構築する。災害時は協定を締結しているセブン銀行アプリを活用し、多言語で情報を発信するとともに、多言語対応の「避難者登録カード」を各避難所に配備し、避難訓練も予定している。

■ ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）について

質問　**世界のできごとを子どもが自らの問題として捉え課題解決を通して他者と協力したり進んで参加する態度等を育むＥＳＤの取組みを問う。**

答弁　本市小中学校ではＥＳＤと共通する考え方のもと、防災、環境教育を行っている。また様々な社会問題に関連付けて学習を展開することができるよう、今後もＥＳＤの視点を取り入れた教育の研究と一層の充実を図っていく。

桑風クラブ　市野（いちの）　善隆（よしたか）

■ 就学前施設（幼保）について

質問　**幼保無償化の影響等により、入園希望者は保育所で増加、公立幼稚園は減少している。就学前施設再編実施計画では１０名以下が２年続けば休園となる。市教委が目指す特別支援を要する保育実践等の役割も果たせなくなることから、計画改定の必要性の所見を求める。**

答弁　幼稚園入園申込は減少傾向にあり、前年度比で５６人の減少で、新たに２園が休園する。公立幼稚園の再編については、計画に基づき行ってきた。特別支援を要する幼児のための教育実践研究や質の高い幼児教育にかかる諸研究を進め、保幼小の連携、保護者の子育て支援を行っていける園になるよう、関係所管とも連携しながら検討していく。

	公私保育所認定こども園	公立幼稚園
H30年度	797	454
H31年度	847	398
R2年度	963	342

※入園希望者最終結果（人）

■ 統合型リゾート施設（ＩＲ）について

質問　**地方自治体による大規模インフラ整備で大きな財政負担も想定され課題も多い中、市内の商工団体が研究会を結成している。一定の理解はするが、国への申請期間は来年７月までと、現実的には厳しい側面もある。市の慎重な対応を求める。**

答弁　ＩＲについては、本市が自ら調査研究することは適切ではないと考えており、申請主体である県に対して調査研究を要望してきた。今後も県の動向に注視し、直面する課題に積極的に取り組んでいく。

桑名市議会議長　伊藤真人
副議長　冨田　薫
監査委員　佐藤　肇

議長・副議長・監査委員の３名につきましては、議会の運営を円滑に進めるため、また、より公平・公正な立場を尊重し、一般質問並びに議案質疑等は自粛させていただいております。

編集　桑名市議会広報広聴委員会

委員長　冨田　薫
副委員長　水谷　憲治
委　員　渡辺　仁美　多屋　真美　森　英一　愛敬　重之

『見づらい、わかりづらい、難しそう・・・』といった議会広報の紙面イメージを変えたいと何度も検討し、内容・イメージの刷新を行いました。さらに皆様にとって身近な議会になるよう広報広聴委員会として努力いたします。